

<p>&lt;校訓&gt; 高志共生</p>	<p><b>大庄中通信</b></p>	<p>大庄中学校 H26年度第11号 (H26.7.2・水)</p>
----------------------------	---------------------	--

## 27年度入試 進学希望調査集計を発表 (県教委)

期末テストが終わった翌日の6月29日(土)の朝刊に、6月10日時点で行われた進路希望調査の全県の集計結果が載っていました。県教委が行う進路調査は、昨年度までは9月の1回だけでしたが、来春の入試が学区再編の第1回目となることから、今年は6月と11月にも行うことになり、実施されたものです。

これまでの中学生の進路決定までの状況を思い浮かべてみますと、2学期のはじめ頃までは、大半の生徒が「公立全日制」への進学を希望しています。ですから、1学期時点での進路希望調査が、最終的な受検校や進路結果に近いものになるかということ、そうではありません。現時点では、通学が便利ということ、経済的負担が少ないこと、教育内容が自分に合っていることなどから、自分の成績はあまり考えずに公立高校を希望する人が多いでしょう。しかし、最終的には、評定や当日のテストなどの成績が足らなくて、その希望を実現できない人がいるのが毎年の現実です。現時点での進路希望がかなえられるかどうかは、これからの努力次第です。

今回は、新聞に発表された内容と本校の進路希望を比べながら、今後の可能性を考えてみました。

### 86%が公立全日制を希望 (大庄中)

公立全日制への進学希望は、県下全域が89.1%、大庄中は85.9%(128人)でした。%としては、3%ほどの差です。しかし、昨年度までの進路調査結果をもますと、県下全域の公立全日制への進学率は70.8%(25年度入試)、尼崎市内は67.4%(25年度入試)、大庄中は65.0%(18~25年度卒業生の平均)でしたから、どの数字と比べても、今年の大庄中3年生の85.9%(128人)が公立全日制に進学することは、おそらく無理だろうと思います。



仮に、今年の3年生が、これからものすごくがんばって勉強をして、実力や成績を伸ばした人がたくさん現れて、過去8年間の卒業生と同じくらいの%で公立全日制に進学できたとしても、149人(在籍数)×65%=97人という数字になります。128人とは、30人ほどの差があります。繰り返しますが、実際にこれだけの人が、6月時点の希望通りに公立全日制に進学できるかは、これからの努力次第です。

### 高校別希望数など (大庄中)

大庄中の128人の全日制公立希望者の学校別内訳は、次の通りです。

尼崎西 52 県尼崎 12 尼崎小田 10 尼崎北 7 尼崎双星 4 市尼崎 3

尼崎稲園 1 武庫荘総 15 県尼崎工 2

県西宮 2 鳴尾 4 西宮今津 3 西宮東 3 県芦屋 5 宝塚北 2 市科学技術 2

本校から市外の公立全日制を希望しているのは、下線を引いた21人(14.1%)でした。この21人の中には、これまでも受検可能だった専門学科が含まれていますから、本校で「新たに」受検できるようになった他市町

の高校を希望しているのは、7人(4.7%)となります。県下全域での「新たに」受検できるようになった高校への希望者の8.9%(第2学区では9.4%)という数字と比べると、やや少ない数字でした。

また、本校の公立全日制高校以外の進路希望は、次の通りでした。

私学 9 定時制 6 通信制 1 特別支援学校 2 就職 3

### 現時点では高校による希望者数のかたよりが大きい

新聞に載っている県全体の結果を見ますと、6月時点では、高校による希望者数のかたよりが、とても大きいということがわかります。今回の調査では、希望者が募集定員に満たない学校、定員をオーバーしている学校など、さまざまでした。6月段階では、そんなものだろうとも思いながら、現時点で、第2学区内の募集定員を大きくオーバーしている学校と募集定員に満たない学校をピックアップしてみました。



県教委によりますと、次年度の募集定員は、9月の希望調査を参考に決めるそうです。中学校としては、9月でも進路希望がまだまだ固まってないのに、それで定員が決められてしまうのか...とも思いますが、教室の準備や教員の確保などのため、この時期に募集定員を確定しておく必要があるでしょう。27年度入試の募集定員は、今回の調査で新聞に載っていた26年度入試の定員とは、若干違ったものになりますし、実際に受検する3学期までに、生徒個々の進路希望はまだまだ変わるでしょうし、第2希望の状況も、出願時にならないとわかりません。「定員割れしているから〇〇高校を受けよう」といった安易な考え方は、やめておくのが賢明です。

#### 募集定員をオーバーしている主な学校

県西宮(単)+308	尼崎双星(普)+285	三田翔雲館(単)+229	武庫荘総(総)+219
川西緑台(普)+210	市伊丹(普)+182	鳴尾(普)+172	市西宮(普)+166
県伊丹(普)+154	西宮東(普)+114	市尼崎(普)+110	北摂三田(普)+94
尼崎稲園(単)+82	尼崎小田(普)+81	有馬(総)+79	尼崎北(普)+72

#### 募集定員に満たない主な学校

川西明峰(普)△107	西宮甲山(普)△89	三田西陵(普)△63	西宮南(普)△54
西宮北(普)△49	宝塚東(普)△49	宝塚(普)△48	県尼崎(普)△21
氷上西(普)△18	篠山鳳鳴(普)△12		

単位制や総合学科、校舎・設備の新しい学校、進路状況が良いと思われる学校が定員を大きく上回り、通学の不便な普通科の学校が定員割れしている傾向があります。

### 尼崎市は定時制・通信制への進学率が高い

尼崎市内の公立全日制への進学率は、県平均より3%くらい低いのですが、私学・定時制・通信制・高専・特別支援学校を含めた「高校進学率」は、県下全域も尼崎市もほとんど変わりません。私学への進学率も、県下全域が20.5%、尼崎市が18.3%と、尼崎がやや低いもののあまり差はありません(いずれも25年度入試)。このからくりは、尼崎市の定時制+通信制への進学率が高いことにあります(尼崎市は12.3%、県下全域は6.0%)。

学力的な問題や経済的事情など、さまざまな要因が重なって、こういう進路状況が続いているのだろうと思います。受検できる公立高校が増えたことが、尼崎市の中学生の進路にどういう結果をもたらすのか、今はわかりません。制度の変更が、尼崎の中学生そして大庄中の3年生に、プラスに作用することを願うしかありません。

(文責:校長 福井 隆夫)